

日本計算機統計学会 会長就任挨拶

日本CRO協会 渡辺 敏彦

この度、2025年度から2年間、日本計算機統計学会の会長に選任いただきました。このような重要な役割を任せていただき大変光栄に存じますとともに、その重責をしっかりと受け止め精一杯務めてまいり所存でございます。会員の皆様には、温かいご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

私は1979年に製薬企業に就職して以来、主に医薬品の臨床試験分野で統計解析やデータマネジメントに携わってまいりました。業務を通じて、統計の理論と現場の実務がしっかりと結びついてこそ、真に社会に貢献できる成果が得られることを実感してきました。その後、医薬品開発受託機関(CRO)の経営に携わるようになり、統計の実務からは離れたましたが、一貫して企業における統計業務の環境整備と人材育成に注力してまいりました。また近年では、日本CRO協会において、医薬品業界のデータサイエンスリテラシー向上と、次世代を担う若手人材の育成をテーマとした活動に積極的に取り組んでおります。若手を対象として統計やデータサイエンスの基礎知識を学ぶセミナーやフォーラムを開催し、業界における統計的な課題解決を支援してまいりました。若手が成長し、自ら新しい課題に挑戦する姿を目の当たりにするなかで、統計人材育成の意義と重要性を改めて強く感じております。

こうした経験から、近年の急速なデータサイエンスの普及には目を見張るものがあります。現在、AI やビッグデータの進展により、社会のあらゆる分野で統計やデータ解析は不可欠なものとなりました。こうした状況のなかで、応用統計学の専門家集団である日本計算機統計学会の役割は、ますます重要になっていると考えております。医療や製薬だけでなく、マーケティングや製造業、さらに社会インフラの分野においても、統計学が意思決定や問題解決の中心的なツールとして認識されています。今後、本学会がさらに多様な業界や社会のニーズに応え、幅広い領域で貢献できる存在となれるよう、一層努力してまいります。

一方で、データサイエンスや統計学は、専門的で難解な分野だと敬遠されがちです。だからこそ、統計にあまり馴染

みがない方にも興味を持っていただけるよう、分かりやすく丁寧な情報発信が重要だと考えております。これまでも本学会は一般市民の皆様への情報発信に力を注いでまいりましたが、さらに「統計は難しそうだけど面白い」「役立ちそうだから学んでみよう」と感じていただけるよう、より親しみやすい学会運営を目指します。会員の皆様からいただいたアイデアを活かし、一般の方々にも興味を持っていただけるような講演会やワークショップを積極的に企画・開催してまいります。

さて、私はこれまで小木元会長と山本前会長のもと、副会長として学会運営に関わってまいりました。お二人の情熱的で誠実な学会運営を目の当たりにし、学会活動を支えることの難しさや重要性を痛感すると同時に、本学会が持つ大きな可能性を感じてきました。特に2017年度より法人化の検討が始まり、小木元会長が推進され、山本前会長のもとで一般社団法人として達成したことは、本学会の大きな歴史的節目となりました。この重要なプロセスを副会長という立場で経験できましたことは、私にとって大変貴重な財産となりました。法人化後に初めて選出された会長として、本学会の新しい時代の一步を担うことへの重責を改めて深く認識しております。

ところで、本学会の特徴の1つは、理論を追求するアカデミアと、現場で課題解決を行う企業が共に議論し、協力し合える場であるという点です。私は企業出身の会長として、これまで現場で培った視点や経験を活かし、企業とアカデミアの橋渡し役としての活動をさらに推進してまいります。企業側の実務における課題やニーズを学会の議論に積極的に取り入れ、それをアカデミックな研究へとつなげることで、社会により役立つ研究成果が生まれることを期待しております。また、若手研究者や学生が積極的に活躍できる場を広げ、次世代の統計人材の育成を引き続き推進してまいります。

学会活動の成功には、会員の皆様一人ひとりのご協力とご支援が欠かせません。私自身も積極的に皆様とコミュニケーションをとりながら、皆様のご意見やご要望を反映した学会運営を心がけてまいります。そして、統計やデータサイエンスを通じて社会に貢献し、多くの方々に統計の楽しさや面白さを伝えていきたいと考えております。

これからの2年間、日本計算機統計学会がさらに魅力的で

親しみやすく、多くの方々に愛される学会として成長していけるよう、誠心誠意努力してまいります。皆様の温かいご支援とご協力を、重ねてお願い申し上げます。

第39回大会のお知らせ

第39回大会実行委員長
同志社大学 宿久 洋

第39回大会を下記の要領で開催いたします。

日程: 2025年6月13日(金)~14日(土)

開催形式: ハイブリッド

会場: カクイクス交流センター(かごしま県民交流センター)
(市電「水族館口電停」下車 徒歩4分)

URL: <https://jscs.jp/conf/taikai39/>

本大会では、産官学の皆さんによる様々な視点を交えた計算機統計学の発展と実践的応用をテーマに、多彩なセッションや講演を予定しております。具体的には三つの企画セッションと特別講演とチュートリアルを一つずつ準備しております。企画セッションの一つ目はプログラマーの視点から製薬業界の未来を考察する「Globalization and Open Source: The Future of Data Science with SAS and R」、二つ目はアダプティブデザインやマスタープロトコルといった革新的な試験デザインをテーマとする「臨床試験における革新的な試験デザイン」が開催されます。三つ目は「スポーツと計算機統計」でスポーツ分野における計算機統計の活用方法など本分野に関心のある方々に役立つ情報が提供される予定です。さらに本大会では鹿児島レブナイズの社長である有川久志氏による特別講演が行われます。有川氏は2023年1月1日、鹿児島のバスケットボールチーム「レブナイズ」の社長に就任し、B3からB2への昇格を牽引した立役者の一人で今回の特別講演「プロスポーツで街は元気になる」では、B3からB2への昇格を果たし、さらに今年の昇格直後にB2リーグにて優勝争いを繰り広げたチームを率いた経験を踏まえ、地方発の成長戦略やプロスポーツの果たす役割について語っていただく予定です。また前日6月12日の午後(14時開始)のチュートリアルではリアルワールドデータ解析のイントロダクションから最新情報までを1時間で解説する「Introduction to Real-World Data: AI-Driven Insights from a Case Study」も予定されています。鹿児島の魅力を存分に味わっていただくため、懇親会は城山ホテル鹿児島にて開催いたします。本ホテルは鹿児島市街や桜島を一望できる絶景のロケーションで、地元の食材を生かした料理とともに交流を深める貴重

な機会となります。鹿児島の黒豚や薩摩揚げ、新鮮な海の幸とともに、世界的にも評価される本格焼酎(希少価値の高いプライベートブランドの焼酎を準備しています)を味わいながら、学術的な議論だけでなく、文化的な交流も楽しんでいただけます。さらに、歴史ある鹿児島の地を訪れる機会として、西郷隆盛ゆかりの地や、維新の歴史をたどる観光スポットもぜひお楽しみください。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

問い合わせ先:

日本計算機統計学会第39回大会事務局

〒890-0081 鹿児島県鹿児島市唐湊4-18-38

株式会社新日本科学 PPD クリニカルデータサイエンス

副実行委員長: 米山 昭成

E-mail: taikai39@jscs.jp

URL: <https://jscs.jp/conf/taikai39/>

第38回シンポジウムの報告

第38回大会実行委員長

岡山理科大学 森 裕一

第38回シンポジウムは、2024年10月24日(木)~26日(土)、岡山市の天神町地区で開催しました。ここでは、美術館や文化ホールが集まり、日本3大名園の1つである後樂園や岡山城が近くにあるまさに岡山の文化の中心地の1つです。この地区にある能楽堂ホール tenjin9 をメイン会場に、同ホールの地下会議室と隣接する岡山市立オリエント美術館の地下講堂を並行会場として、本シンポジウムを実施しました。



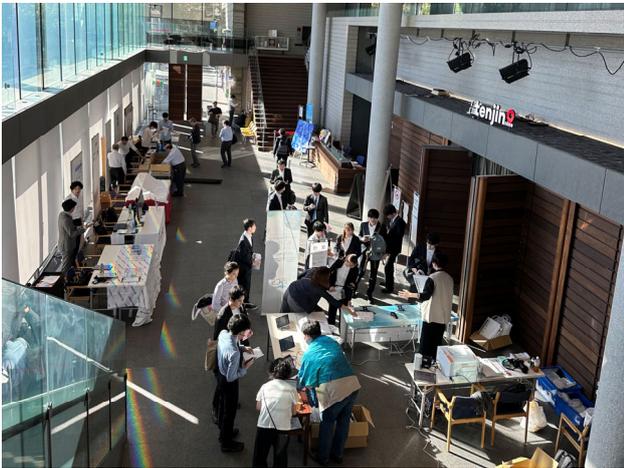
懇親会場は岡山城一棟貸しで行いました。前年の6月に、おかやま観光コンベンション協会様から、この会場設定の話を聞き、これは日本計算機統計学会で絶対実現しなければならないという使命感から、学会に打診し、実現に至った次第

です。

各日の内容は以下の通りです。

チュートリアルセミナーでは、PC を操作しながら予定人数超の 63 人が受講されました。

シンポジウム 1 日目は、学生セッション 40 講演、一般発表 6 講演と、学生向けセッション「社会で活躍する統計家を知る」がありました。夕刻には、能楽堂ホールに一同が会し、「岡山の文化と能」と題して、観世流能楽師の方の特別講演を聴講（鑑賞）しました。能の歴史や岡山と能の関係のお話し、そして、実際に能を舞っていただきました。お話も大変お上手で、本物の能を身近に感じる皆さん大満足の特別講演でした。その後、岡山城に移動し、岡山おもてなし武将隊がお迎えする情報交換会を行いました。予定人数を超える 130 人に参加いただきました。



2 日目は、恐竜学博物館をもつ岡山理科大学から「恐竜学」について 2 件の特別講演、「スポーツアナリティクスのトレンドと実践」、「データサイエンス教育」、「産学連携のデータサイエンス活動」の 3 件の企画セッション、企業紹介セッション 1 件がありました。一般発表は 17 講演でした。

総参加者数は 251 人（うち 10 人はオンライン）で、過去最大規模のものとなりました。学生の発表数も過去最高で、若手育成に大きな役割が果たせたと思います。一方、発表数が多く、学生発表の時間が短くなったり、メイン会場では能舞台に登壇できたものの、他の 2 会場は手狭で、皆さんにはご不便をおかけしたかと思います。しかし、多くの皆さんに参加いただき、文化に触れつつ、活発な議論ができたことは、大変有意義な会であったと感じています。ご参加、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



若手セミナーの報告

若手奨励理事

横浜市立大学 山本 絢司

日本計算機統計学会では、従来学会として力を入れてきた学生奨励をさらに推進し、2017 年から、大学院生などの若手を対象とした合宿形式の若手セミナーを開催しています。本セミナーは学生のみでの発表でスタートしましたが、2021 年度から学生でない若手研究者にも枠を広げ発表者を募っています。第 8 回目となる 2024 年度若手セミナーは、2024 年 9 月 9 日（月）に神奈川大学みなとみらいキャンパスにて対面形式で実施しました。参加者は若手研究者 16 名（うち会員 15 名）、その他正会員 7 名の 23 名でした。セミナーでは、若手研究者によるライトニングトーク 14 件、一般研究発表 8 件の発表が行われました。これまでの若手セミナーの伝統を引き継ぎ、一般研究発表については通常の学会発表よりも長めの時間を用意し、うち半分程度は質疑・議論の時間にあて、参加者間の議論や交流を促しました。また、今回も昨年に引き続き懇親会を開催しました。様々な大学や企業に所属する人々と交流する機会となり、活発な議論ができ、盛会のうちに終えることができましたのはひとえにご参加いただいた方々、また準備・開催にご尽力いただいた先生方のお陰です。ここにお礼を申し上げます。今後とも若手セミナーをどうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、2025 年度若手セミナーも開催予定（現時点では開催地未定）です。開催の詳細は Web ページなどで周知していきます。学生および若手研究者の方々からの多数の参加をお待ちしています。

2024年度セミナー実施報告

2024年度に3回の計算機統計セミナーを下記のとおり開催しましたので、報告します。

・2024年度第1回計算機統計セミナー

日時: 2024年8月31日(土) 13:00-17:00

実施形態: Zoom(Web会議システム)を利用

表題: 計算機統計学研究における再現可能性の課題と解決策

講師: 瓜生 真也 氏(徳島大学)

参加者: 9名

セミナー内容: 再現性の課題に対する解決策として、コンピュータ上で利用可能なツールや手法を、Rを用いたデータ分析環境を例に紹介した。

・2024年度第2回計算機統計セミナー

日時: 2024年9月28日(金) 10:00-12:00

実施形態: Zoomを利用

表題: ベイズ流臨床試験デザイン入門

講師: 手良向 聡 氏(京都府立医科大学)

参加者: 19名

セミナー内容: 医薬品開発の特に早期の段階で活用機会が増えているベイズ流臨床試験デザインについて、基礎からバスケット試験や階層ベイズまで理論と活用事例を分かりやすく紹介した。

・2024年度第3回計算機統計セミナー

日程: 2024年12月13日(金) 16:00-18:00

実施形態: 対面とZoomのハイブリッド形式

表題: Pythonによるシミュレーション実践: S4 Simulation Systemで学ぶ離散イベントシミュレーションとシミュレーション記述言語によるプログラミング実践

講師: 嶋田 佳明 氏, 西畑 みなみ 氏((株)NTT データ数理システム)

参加者: 7名

セミナー内容: 銀行などの受付窓口や製造工程モデルを例に離散イベントシミュレーションについて、Pythonを用いたシミュレーション分析を紹介し、実際に体験していただいた。

学生研究発表賞受賞者より

第38回シンポジウムで学生研究発表賞を受賞された方よりコメントを頂きましたので、ご紹介いたします。

「学生研究発表賞」を受賞して

東京理科大学大学院創域理工学研究科 菌部 成輝

この度は、日本計算機統計学会第38回シンポジウムにおいて「学生研究発表賞」をいただき、大変光栄に存じます。審査をしてくださった先生方ならびに本大会の準備・運営に携わられた皆様に、心より御礼申し上げます。また、共同研究者である中川智之先生、桃崎智隆先生、指導教員の田畑耕治先生をはじめ、研究室の皆様にも深く感謝いたします。

今回のシンポジウムでは、「確率的勾配降下法を用いたDensity power divergenceに基づく一般化事後分布からのサンプリング法」という題目で発表いたしました。近年、外れ値を含むデータに対する頑健な分析手法の重要性が高まっています。Density power divergenceに基づく一般化事後分布(DPD-posterior)は、外れ値の影響を受けにくい推定が可能であることが理論的に示されており、推定結果が分布として得られるため、不確実性も評価できるという利点があります。しかし、正規分布など一部の特定の分布を除き、解析的に陽に書けない積分項が含まれるため、マルコフ連鎖モンテカルロ法(MCMC)を用いた計算が困難という課題がありました。この課題を解決するため、本研究では、一般化事後分布からの近似サンプリングを行うloss-likelihood bootstrapと、機械学習の分野で広く用いられる確率的勾配降下法を組み合わせた新たな手法を提案しました。これにより、DPD-posteriorをより広範な確率モデルへ適用することが可能になりました。また、数値実験を通じて、従来手法と比較してデータの次元が増加した場合でも効率的にサンプリングできることを確認しました。さらに、DPD-posteriorを解析的に陽に書けないモデルへ適用した数値実験でも、従来手法より推定精度が改善することを示しました。今後の課題として、一般化線形混合効果モデルへの拡張や、縮小事前分布などを取り入れ、高次元データでも効率的かつ精度の高い推定を可能にすることが挙げられます。

このような賞をいただいたことは、自身の研究にとって大きな励みとなりました。今後ともより良い研究に励んでまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

「学生研究発表賞」を受賞して

早稲田大学大学院創造理工学研究科 泓 亜由乃

この度は、日本計算機統計学会第38回シンポジウムにおいて学生研究発表賞という名誉ある賞をいただきましたこと、大変光栄に思います。審査をしていただきました先生方、な

らびに本大会の運営に携わってくださったすべての皆様に、厚く御礼申し上げます。また、本研究に関して、お忙しい中熱心なご指導をいただきました早稲田大学後藤正幸先生、研究室の皆様、貴重なデータをご提供いただきましたジーコム株式会社ソフトウェア技術部新井俊宏様に、この場を借りて、深く感謝申し上げます。

本研究では、「点群データの異常スコア系列を活用した転倒識別フレームワーク」と題し、ミリ波センサから得られる点群データを用いて、観測対象者が「転倒して動けない」という状態を自動で識別する手法を提案させていただきました。少子高齢化が進む日本社会においては、本研究のようなセンサを用いた自動見守りを目指す取り組みが活発化しており、本提案手法は、プライバシー保護に配慮した見守りを実現することのできるアプローチとして、特に有用であると考えております。

本シンポジウムで研究成果を発表できたことは、私の学生生活において大変貴重な経験となりました。このような発表の場を設けていただきましたこと、心より感謝しております。この受賞を励みとして、より一層精進していく所存でございます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

「学生研究発表賞」を受賞して

同志社大学大学院文化情報学研究科 木元 篤郎

この度は、日本計算機統計学会 第38回シンポジウムにて、学生研究発表賞を頂戴し、大変光栄に存じます。本シンポジウムの開催にあたり、企画・運営に携わっていただいた方々および審査いただいた先生方に厚く御礼申し上げます。また、平素より熱心かつ丁寧にご指導いただいている宿久先生、京都女子大学の土田先生をはじめ、統計科学研究室の皆様心より感謝申し上げます。

本シンポジウムにて、私は「重複クラスタリングを用いた認知診断モデルにおける Q 行列の推定法について」という演題で発表を行いました。本研究では、認知診断モデルにおける Q 行列の推定手法に着目しました。特に、認知診断モデルにおける Q 行列の識別可能性に着目し、既存手法の課題であったモデル誤特定の問題と識別性の担保の両者を同時に達成する手法として、重複クラスタリングの識別性を援用したアルゴリズムによる新たな Q 行列推定手法を提案しました。数値実験を通して、提案手法が既存の手法と同等以上の精度で Q 行列を推定可能であることを確認しました。

今回伝統のある日本計算機統計学会に参加し、発表を行

ったこと、及び他大学の学生や先生方々の発表を拝聴したことで得られた学びはとても大きく、大変有意義な時間を過ごすことができました。今回の受賞を励みとし、より一層の努力を重ね、日々精進していきたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

「学生研究発表賞」を受賞して

東京理科大学大学院理学研究科 岩崎 拓海

この度は、日本計算機統計学会第 38 回シンポジウムにて学生研究発表賞を頂戴し、大変光栄に存じます。審査員の先生の皆様、ならびに本シンポジウムの運営に携わってくださった全ての皆様に厚くお礼申し上げます。また、平素より熱心にご指導いただいている東京理科大学の橋口博樹先生、清水康希先生をはじめ研究室の皆様深く感謝申し上げます。

本シンポジウムにて、私は「最大・最小固有値の比の正確分布とその数値計算」という演題で発表を行いました。ホワイトノイズ行列の最大・最小固有値の比は球形検定の検定統計量として用いられてきました。しかし、帰無分布を重積分で求める場合、低次元であっても計算時間が非常に長いという問題がありました。本研究では、帰無分布を重積分を用いずに計算するアルゴリズムを提案し、従来よりも高速に大きな次元に対する帰無分布を導出できるようになりました。また、数値実験として具体的な計算時間の他、帰無分布の性質や実データに対して、本アルゴリズムを用いて球形検定が実施できることを確認しました。

今回の受賞を励みとし、より一層研究に精進していく所存です。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

「学生研究発表賞」を受賞して

神奈川大学大学院経済学研究科 成田 翔一

この度は、日本計算機統計学会の学生研究発表賞を賜り、大変光栄に存じます。本研究では、高次元データの文脈において強スパイク構造を前提とした新たな相関検定を提案いたしました。具体的には、 ρV 係数の一致推定量である修正 RV 係数を用いて検定統計量を導出し、その帰無分布が重み付きカイ二乗分布に漸近的に従うことを証明し、高精度の近似検定が可能であることを数値シミュレーションで確認しました。高次元統計解析の理論研究として新規性の高い内容に取り組めたことを、とても誇りに思います。

今回の成果に至るまでには、神奈川大学の兵頭昌先生や専修大学の西山貴弘先生から多大なご指導をいただきました。研究の方向性や解析手法に関する丁寧な助言、また理論面・実装面の両方での確かなフィードバックをいただけたことが、成果を形にする大きな原動力となりました。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

今回の受賞は、試行錯誤を積み重ねてきた研究活動を評価していただいた証しでもあり、身が引き締まる思いです。今後もさらに研鑽を重ね、高次元データ解析のみならず、さまざまな統計的課題に貢献できるよう努めてまいります。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

「学生研究発表賞」を受賞して

同志社大学大学院文化情報学研究科 後藤 寛治

この度は、日本計算機統計学会第 38 回シンポジウムにおいて、学生研究発表賞という名誉ある賞を頂戴し、大変光栄に存じます。本大会の開催にあたり、企画・運営に携わっていただいた方々および審査いただいた先生方に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、平素より熱心にご指導して頂いている宿久先生、谷岡先生、柚木先輩をはじめ、統計科学研究室の皆様にお心より感謝申し上げます。

本シンポジウムにて、私は「pcLasso 制約を伴う縮小ランク回帰について」という演題で発表を行いました。回帰係数を説明変数の主要な主成分に強く偏らせつつ、モデルにスパース性を加える手法として pcLasso という手法があります。pcLasso は単一の目的変数に適用することを想定しているが、複数の目的変数がある状況では pcLasso をそれぞれの目的変数に適用することを考えます。しかし、それぞれの目的変数に適用する場合、目的変数の相関構造を捉えることができないという問題があります。そこで本研究では、縮小ランク回帰の目的関数に対して pcLasso を導入した手法を提案し、提案手法が既存手法より性能が良いことを数値実験及び実データ適用を通して確認しました。

今回日本計算機統計学会に参加し、発表を行ったこと及び他大学の学生や先生方の発表を拝聴したことで得られた学びはとて大きく、有意義な時間を過ごすことができました。また、今回の受賞を励みに、より一層研究活動に邁進していく所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

「学生研究発表賞」を受賞して

関西大学社会学部社会学科 米山 紗矢

この度は、日本計算機統計学会第 38 回シンポジウムにおいて、学生研究発表賞という名誉のある賞を頂き、大変光栄に存じます。審査員の先生方をはじめとした、大会関係者の皆様にお礼申し上げます。また、統計に関して若輩者の私に丁寧にご指導して下さった、関西大学社会学部の山下直人先生に、この場をお借りして感謝申し上げます。

今回、「探索的因子分析における因子の抽出法と回転法の組み合わせの数値シミュレーションによる検討」と題して発表させていただきました。人間科学分野で多用されている探索的因子分析では、因子の抽出法と回転法を分析者自身で指定する必要があります。しかし、その組み合わせ方を決定する統一的基準はなく、指定する際には苦慮するという問題がありました。そこで、本研究では多変量正規分布に基づいて生成した人工データを用いて、複数の代表的な組み合わせを因子分析にかけ、結果を 3 つの指標で評価することによって、因子の抽出法と回転法の組み合わせを決定するための知見を得ることを目的としました。数値シミュレーションを行った結果、比較的バランスの良い安定した結果を出力できる組み合わせを確認できました。さらに、特異的な結果を示す手法の存在も示唆されました。今後は、別の条件やデータでの検討が求められます。

本発表を通して、自身の至らぬ点に多く気付くことができました。例えば、研究に必須な統計的な知識は勿論のこと、内容を分かりやすく伝えるための発表方法や、簡潔な文章の記述など、勉学以外の場面でも必要となるスキルを身に付ける必要性を感じられました。それ故に、この度の受賞は、私の人生にとって大変貴重な経験となりました。この経験を糧にこれからも精進して参ります。改めて、全ての関係者の皆様に感謝申し上げます。

「学生研究発表賞」を受賞して

大阪大学大学院人間科学研究科 橋本 捷矢

この度は、日本計算機統計学会第 38 回シンポジウムにおいて、学生研究発表賞という名誉ある賞をいただき、誠に光栄に存じます。審査員の皆様、ならびに本大会の運営に携わって下さった全ての皆様に厚く御礼申し上げます。また、本研究に関し熱心にご指導いただいた大阪大学の山本先生、行動統計科学研究室の皆様、深く感謝申し上げます。

本発表では、「DAG-NoCurl に基づく潜在因子間の因果構造推定法の開発」という題目で、発表させていただきました。

心理学や社会学の分野においては、直接観測できない潜在因子に関心がある場合が多く、観測データから潜在因子間の因果構造を推定する因果探索手法が提案されてきました。しかしながら、反復的な連続最適化によって因果構造を推定する既存の因果探索手法は、想定する潜在因子数などの増加に伴い、計算時間が大幅に増加するという課題が存在していました。こうした背景に対し、反復的な最適化を必要としない DAG-NoCurl を用いて、従来手法の課題を克服する新たな潜在因子間の因果探索手法を開発し、数値実験を通して提案手法の有用性を確かめました。結果として、提案手法は、既存手法と同等の推定精度を保ちつつ、潜在因子数やサンプルサイズが大きいときに大幅に計算時間を短縮できることを示しました。

今回開発した提案手法は、学部時代に学んだ社会心理学分野において、直接観測できない潜在因子などを扱う中での経験をきっかけとして開発したものでした。そのため、この手法を開発することで、これまで関わってきた心理学分野に若干ながら貢献できたこと、そして学生研究発表賞の受賞という形でこの結果を評価いただけたことを、非常に嬉しく思います。この受賞を励みとし、より一層、日々精進していく所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

「学生研究発表賞」を受賞して

早稲田大学大学院創造理工学研究科 阿部 太一

この度は、日本計算機統計学会第 38 回シンポジウムにて学生研究発表賞をいただきましたこと、大変光栄に思います。審査をしていただきました諸先生方をはじめ、シンポジウムを運営してくださった皆様に厚く御礼申し上げます。また、平素より熱心にご指導くださった後藤正幸先生、研究室の先輩方にも、この場を借りて、心より御礼申し上げます。

本研究では、「オムニチャネルにおける新規 EC 利用促進のためのデータ駆動型ターゲットティング手法に関する研究」と題し、実店舗と電子商取引 (EC) の両チャネルを運営する小売業者において、実店舗のみを利用している顧客が新たに EC を利用した場合の購買金額の上昇を予測するフレームワークを提案いたしました。従来の顧客生涯価値 (LTV) 予測は単一チャネルに限定されていましたが、本研究ではこれをオムニチャネル環境に拡張し、「実店舗のみ利用継続の場合の LTV 予測モデル」と「EC 新規利用の場合の LTV 予測モデル」を構築し、その差分から上昇 LTV を予測しました。また、転移学習を活用することで EC 利用顧客のデータ不足問題を

解決し、実データを用いた実験により提案手法の有効性を示しました。

本シンポジウムは私の学生生活において、大変貴重な経験となりました。改めて、すべての関係者の皆様に深く感謝申し上げます。この受賞を励みとし、より一層精進していく所存でございます。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

「学生研究発表賞」を受賞して

早稲田大学大学院創造理工学研究科 磯村 時将

このたび、日本計算機統計学会第 38 回シンポジウムにて学生研究発表賞を受賞できたことを、大変光栄に思います。本賞を賜ることができましたのも、多くの方々のご支援とご指導の賜物であり、心より感謝申し上げます。特に、共著者である後藤正幸先生 (早稲田大学)、清水良太郎氏 (早稲田大学) には、熱心にご指導を賜りましたことを、ここに深く御礼申し上げます。

本研究では、ビジネスの現場で広く用いられる表形式データに対する新たな生成手法を提案しました。近年注目を集める大規模言語モデルと、画像生成 AI として発展を遂げた拡散モデルを応用し、プライバシー規制を考慮しつつ高品質な表形式データを生成することを目的としています。多様な分野のデータを用いた評価実験を通じて、提案手法の有効性を示しました。本研究は、実務での幅広い応用が期待されます。

本シンポジウムは、私の学生生活において大変貴重な経験となりました。改めて、すべての関係者の皆様に深く感謝申し上げます。この受賞を励みに、今後もより一層精進してまいります。

「学生研究発表賞」を受賞して

大阪大学大学院基礎工学研究科 車谷 優樹

この度は、日本計算機統計学会第 38 回シンポジウムにおいて学生研究発表賞をいただき、大変光栄に存じます。本大会を企画・運営してくださった先生方、発表を審査いただいた審査員の皆様に、心より御礼申し上げます。また、平素よりご指導いただいている大阪大学の鈴木讓教授に、深く感謝申し上げます。

本発表では、「学習係数導出の新たなアプローチ」という題目で発表させていただきました。学習係数とは、渡辺澄夫先生のベイズ理論によって導入された概念であり、汎化誤差や自由エネルギーの漸近的性質を表す鍵となるものです。し

かし、例えばニューラルネットワークモデルや混合分布モデルといった正則条件を満たさない特異モデルに対しては、学習係数の値は未だ知られていません。この計算が難しい要因の一つとして、学習係数が統計学とは一見無関係に思える代数幾何学と密接に関連していることが挙げられます。

私の研究では、代数幾何学の手法を駆使し、正則条件に次ぐ比較的シンプルな特異モデルに適用できる学習係数の公式を理論的に導出しました。そして、この公式を適用することで、単純なニューラルネットワークモデルや混合分布モデルの学習係数を求めることに成功しました。本公式により学習係数が Fisher 情報行列のランクや、対数尤度比関数の微分回数から定まる自然数に大きく依存していることが明らかとなりました。最後に、本公式の正当性を数値実験を通じて確認しました。

今回の受賞を励みに、より一層努力を重ね、日々研鑽を積んでまいります。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

「学生研究発表賞」を受賞して

筑波大学大学院人間総合科学研究科 滝澤 寧太

この度は、日本計算機統計学会第 38 回シンポジウムにおいて、学生研究発表賞という名誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。審査を担当して下さった先生方、および本シンポジウムの運営に携わって下さった皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、熱心にご指導いただいた筑波大学の五所正彦先生、丸尾和司先生、石井亮太先生に改めて感謝申し上げます。

本発表では、「中間解析におけるバイアス補正法に対する信頼区間の性能比較」という題目で発表させていただきました。近年、特に群逐次デザインを用いる臨床試験において、バイアス補正法に対する関心は高まっています。しかし、点推定に関する議論と比較し、区間推定の議論は十分に行われていません。そこで本研究では、区間推定の議論を行い、バイアス補正法に対する最適な信頼区間構築法を提案しました。

本シンポジウムでは、残念ながら能楽堂での発表は叶いませんでしたが、岡山城での懇親会は大変貴重な経験となりました。次回は、ユニークな会場で発表する機会を得られるよう、より一層精進してまいります。また、日本計算機統計学会がますます発展し、懇親会がさらに充実することを心から願っています。この度は、誠にありがとうございました。

学会からのお知らせ

一般社団法人 日本計算機統計学会 令和 6 年度第 2 回評議員会 議事録

■議長: 山本 義郎(会長, 東海大学)

■日時: 2024 年 10 月 26 日(土)16:20~17:20

■場所: 能楽堂ホール tenjin9 および Zoom でのハイブリッド開催

(https://www.doshisha.ac.jp/information/campus/tokyo_c/tokyo_c.html)

■出席者 (敬称略, 会長・副会長以外は五十音順):

山本義郎(会長:議長),

河合統介, 宿久洋, 渡辺敏彦(副会長),

足立浩平, 阿部貴行, 飯塚誠也, 石岡文生, 石橋雄一,

五十川直樹(*), 大草孝介(*), 岡田謙介(*), 小木しのぶ,

栗原考次, 坂本亘, 佐藤耕一, 塩谷順彦(*), 篠津和夫,

下川敏雄, 杉本知之, 竹内光悦(*), 田澤司(*), 富田誠,

中川重和, 藤野友和, 丸尾和司, 山県綺青壮(*)

■委任状提出:

大石雅彦, 鎌倉稔成, 久保田貴文, 瀬尾隆, 道家暎幸,

橋口博樹, 藤澤正樹, 米山昭成

■陪席理事・監事:

大槻成章(*), 小田牧子(*), 川崎玉恵, 酒折文武,

谷岡健資, 月田あづさ, 土田潤, 永久保太士(*),

中村智洋, 中村永友(*), 水田正弘, 光廣正基, 森裕一,

山田隆行

((*):オンラインでの出席)

●定足数の確認等

評議員会定足数 35 名(半数以上の出席)に対し、出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

●議題:

●報告事項

◆1. 会員の異動について

中村 庶務理事より 2024 年 4 月 10 日から 2024 年 9 月 30 日までの会員の異動状況について報告があった。

◆2. 和文誌について

山田 和文誌編集理事より、和文誌の編集状況および特集「小標本医学データの解析における諸問題への対処」の論文募集について報告がなされた。

◆3. 欧文誌・JJSD について

丸尾 欧文誌編集理事より、JJSD の編集状況について報

告がなされた。

◆4. 広報活動について

藤野 広報理事より、広報活動について報告がなされた。

◆5. 渉外活動について

竹内 渉外理事より、渉外活動について報告がなされた。

◆6. 産官学連携活動について

小木 産官学連携理事より、産官学連携活動の活動状況及び、今後の予定について報告がなされた。

◆7. 第38回大会の報告

永久保 大会実行委員長より、第38回大会の報告がなされた。

◆8. 2024年度統計関連学会連合理事会・組織委員会の報告

山本 会長より、2024年度統計関連学会連合理事会・組織委員会の報告がなされた。

◆9. 2025年度統計関連学会連合ならびに同大会関連委員等の選出について

山本 会長より、2025年度統計関連学会連合の開催日程および本学会から選出される委員等の選出について報告がなされた。

・プログラム委員 山田隆行(京都女子大学・二期目)

・プログラム委員 竹内光悦(実践女子大学)

・運営委員 小田牧子(防衛医科大学校・二期目)

・運営委員 中村智洋(京都女子大学)

◆10. 若手セミナーの報告

杉本 若手奨励理事より、2024年9月に神奈川県で開催された若手セミナーについて報告がなされた。

◆11. 計算機統計セミナーについて

阿部 企画理事より、2024年8月および9月の計算機統計セミナーの報告および今後の活動予定について報告がなされた。

◆12. 2025-2026年度 会長・副会長・評議員選挙の報告

中村 庶務理事より、2025-2026年度 会長・副会長・評議員選挙の報告がなされた。

◆13. 第39回大会の進捗状況

宿久 大会実行委員長より、第39回大会の準備状況について報告がなされた。

◆14. その他

特になし。

●審議事項

◆1. 選挙等内規 改正案について

山本 会長より、選挙等内規 改正案について説明があり、審議の結果、承認された。

◆2. 第39回シンポジウムについて

山本 会長より、第39回シンポジウムを2025年に栗原 実行委員長により京都女子大学で開催する旨の提案がなされ、審議の結果承認された。

◆3. 2023年度スタディー・グループ活動報告について

中村 庶務理事より、2023年度スタディー・グループ活動報告について報告があり、審議の結果承認された。

◆4. 横幹連合への再加入について

山本 会長より、横幹連合への再加入について報告があり、審議の結果承認された。

◆5. 学生会員の入退会繰返しによる特典の複数回利用について

山本 会長より、学生会員の入退会繰返しによる特典の複数回利用について報告があり、審議の結果、学生会員の入退会繰返しによる特典の複数回利用は不可となった。審議の結果の内容を反映した文言を学会ホームページおよび2025年度新入会員キャンペーンの実施に追記することとなったが、その文言については後日メール審議することとなった。

◆6. 2025年度 新入会員キャンペーンの実施について

中村 庶務理事より、2025年度 新入会員キャンペーンの実施について報告があり、審議の結果承認された。5.の文言も後日記入することとなった。

◆7. 次期評議員会への引継ぎ事項について

山本 会長より、今期をもって退任されること、また、来年度以降の新体制のもとで40周年記念のイベントの実施についてご検討いただきたい旨、報告がなされた。

◆8. その他

特になし。

一般社団法人 日本計算機統計学会 令和7年度第1回臨時社員総会議事録

■日時: 2024年12月6日(金)

(メーリングリストによる審議)

●審議事項

◆1. 2025-2026年度理事・監事の選出について、審議の結果、反対なく承認された。

一般社団法人 日本計算機統計学会 令和7年度第1回臨時理事会議事録

■日時: 2025年2月7日(金)

(メーリングリストによる審議)

●審議事項

◆1. 2023年度事業報告

2025-2026年度会長の選出について、審議の結果、反対なく承認された。

◆2. 2025-2026年度副会長の選出について、審議の結果、反対なく承認された。

◆3. 2025-2026年度代表理事の選出について、審議の結果、反対なく承認された。

新入会員(敬称略, 申請日順)

【正会員】

【賛助会員】

現会員数(2024年9月30日現在)

正会員数(国内・海外)	506
学生会員	87
賛助会員	20
団体会員	1
合計	614

【学生会員】

学会・研究会のお知らせ

【開催予定一覧】

【国内】

・日本計算機統計学会 第39回大会

会場: 鹿児島県民交流センター(鹿児島県鹿児島市)

日程: 2025年6月12日(木)~14日(土)

<https://jcs.jp/conf/taikai39/>

【国外】

・The 13th Conference of the IASC-ARS

会場: University of Economics Ho Chi Minh City, Vietnam

日程: 2025年12月4日(木)~6日(土)

<https://viasm.edu.vn/en/hdkh/iasc-ars-2025/>

•The 19th International Joint Conference of Computational and Financial Economics and Computational and Methodological Statistics (CFE-CMStatistics 2025)

会場: King's College London, UK

日程: 2025年12月13日(土)~15日(月)

<https://www.cmstatistics.org/CFECMStatistics2025/>

◆2025年度計算機統計セミナー開催のお知らせ

日本計算機統計学会では、計算機統計学の普及・発展の一環として、2009年より計算機統計セミナーを実施しております。今年度のセミナーにつきましては現在企画中ですが、決まり次第以下のURLおよび、メールニュースにて随時お知らせいたします。

URL:<https://jcs.jp/学会の活動/セミナー/>

広報委員会からのお知らせ

◆ニューズレターでの広告掲載について

本ニューズレターでは広告の掲載を募集しております。2024年10月発刊の第80号よりカラーでの広告掲載も可能となりました。広告掲載をご希望の会員は、渉外理事(shougai@jcs.jp)までお問い合わせください。また、ニューズレター以外の媒体のうち、学会ウェブページ(<https://jcs.jp/>)のバナー広告、和文誌、計算機統計セミナー関連の広告掲載に関するお申し込み・お問い合わせも、上記のE-mailアドレスにて随時受け付けています。

なお、大会およびシンポジウム関連の広告掲載については、それぞれの実行委員会にご連絡をお願いいたします。

事務局からのお知らせ

◆会費納入のお願い

会員の皆様には2025年度会費振込用紙を4月に送付させていただいております。会費の未納は学会運営に大きな影響を及ぼしますので、お忘れのないように納入をお願いいたします。

会費のお支払いは、下記の口座への振り込みのほか、クレジットカードでのお支払いも可能です。

詳細につきましては、会費振込用紙と一緒に送付した「会費納入のお願い」をご確認ください。また、複数年にわたって会費を未納の場合、評議員会の審議を経て除名されることがありますので、ご注意ください。

なお、2024年度からは法人化に伴い、法人口座の銀行も新たに加まりました。以下の口座のいずれかに納入してください。

《ゆうちょ銀行》

口座名義: 日本計算機統計学会

口座番号: 00180-0-537374

《三菱UFJ銀行 青山支店》

口座名義: 日本計算機統計学会

普通口座: 5284324

《三菱UFJ銀行 神保町支店》

口座名義: 一般社団法人 日本計算機統計学会

普通口座: 1721841

◆高齢者会員の会費割引について

本会では、主として退職された会員を対象に会費割引の制度を設けています。

(1) 60歳の誕生日を過ぎていること

(2) 会誌(和文誌)の配布を希望しないこと

の両方を満たす場合、お申出により会費が割引(7,000円→2,000円)となります。会費割引には評議員会での承認が必要となりますので、ご希望の会員はお早めに事務局にお申出ください。

◆2025年度の新入会員の特典について

2025年度に学生会員または賛助会員として新規に入会された新入会員は、入会特典を受けることができます。統計科学に関する研究を行っている学生の方がお近くにいらっしゃいましたら、ぜひこの機会に入会をお誘いください。

また、学会では賛助会員のために様々な形で計算機統計学に関する情報の提供・交換の場を設けています。会員の皆様には、統計科学とその周辺領域、コンピュータなどに関係のある企業・団体をお誘い、あるいはご紹介くださいますようお願いいたします。

入会特典の詳細につきましては、学会ウェブページの

<https://jcs.jp/入会のお誘い/新入会員特典/>をご覧ください。

◆会員情報の変更について

所属変更等をされた会員の方は、お手数とは存じますが、学会への変更の届出を忘れずをお願いいたします。届出を忘れると郵便などによる学会からの連絡が届かなくなってしまう可能性があります。学生会員の方で今年就職をされた方は、今年度から

正会員となりますので、必ず新しい所属・連絡先をお知らせください。

会員情報に変更のある会員の方は、学会事務局 (office@jscs.or.jp) 宛に電子メールで変更点をお知らせください。

ご理解、ご協力をいただけますよう、お願い致します。

◆休会制度、種別変更猶予制度について

本会では、休会制度および種別変更猶予制度を設けています。

「休会制度」は、会員に特段の事情が認められる場合、理事会の承認を経た上で、会員資格の停止とともに、会費を徴収しないことができることとした制度です。

「種別変更猶予制度」は、学生会員が学生としての身分を失い正会員に移行する際に、経済的事由などにより正会員として学会に所属することが著しく困難であると理事会で認められた場合、引き続き「学生会員」として所属できることとした制度です。

本制度は、年度単位で適用されます。希望される会員は、事務局までご照会ください。なお、本制度に関わる申し合わせは、

<https://jscs.jp/face/rules/kyukai.html>

からご覧いただけます。

◆スタディー・グループ募集のお知らせ

2025 年度のスタディー・グループを募集しています。スタディー・グループとは、計算機統計学およびその周辺分野から重点的な研究テーマを募集・選定し、そのテーマに関する研究活動(最大 3 年間)を奨励する制度です。評議員会で設置が認められると、学会から 1 グループあたり年間最大5万円の補助金を受けられます。スタディー・グループの設置を希望されるグループの代表の方は、必要事項を明記した設置申請書を学会事務局にお送りください(E-mail, FAX, 郵送いずれも可)。応募締切は 4 月 30 日(水) (必着)です。なお、スタディー・グループの概要および申請方法・様式等につきましては以下のウェブページをご覧ください。

<https://jscs.jp/学会の活動/スタディーグループ/>

広報委員会

(五十音順、*印は理事、+印は今号編集担当)

安藤 宗司+(東京理科大学)
石岡 文生(岡山大学)
大草 孝介(中央大学)
川崎 玉恵*(青山学院大学)
小泉 和之*(順天堂大学)
谷岡 健資*(同志社大学)
藤野 友和*(福岡女子大学)
南 弘征(北海道大学)
村上 秀俊(東京理科大学)
山本 由和(徳島文理大学)

日本計算機統計学会への入会のお誘い

一般社団法人 日本計算機統計学会事務局

一般社団法人 日本計算機統計学会では、随時新入会員を募集しております。会員の皆様の近隣で計算機統計学に興味のある方がいらっしゃいましたら是非入会をお勧めください。個人会員、賛助会員ともに入会いただくと、さまざまな特典があります。

2025年度の入会特典について

【対象期間】

2025年度（2025年4月1日～2026年3月31日）

【対象者】

対象期間内に新規に学生会員または賛助会員として入会申込を行い、入会金・初年度年会費を納入した新入会員

（入会金・初年度年会費の納入が確認された時点で特典の権利が発生します）

※賛助会員には入会金はありません。

<学生会員になられる方への特典>

本会の大会またはシンポジウムに、1回に限り無料で参加することができます！

<賛助会員になられる企業・団体への特典>

学会発行の論文誌、講演報告集、ニューズレターなどに企業広告を廉価で載せることができます！

入会特典についての詳しい内容は学会ウェブページをご覧ください。

<https://jscs.jp/入会のお誘い/新入会員特典/>

<お問合せ・連絡先>

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-6 能楽書林ビル 5F
(公財)統計情報研究開発センター内 日本計算機統計学会事務局

TEL : 03-3234-7580 (平日 9:30~17:00)

FAX : 03-3234-7580

E-mail : office@jscs.jp

URL : <https://jscs.jp/>